

令和7年度

自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校ひまわり分校

|                   |                                                                                                                                                 |          |                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中長期目標<br>(学校ビジョン) | 聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。 <div>⇒<div>〈めざす子ども像〉<br/>【知】学び合う子<br/>【徳】かなえる子<br/>【体】やりぬく子</div></div> | 今年度の基本方針 | 1 一人一人のきこえに応じた学びの充実<br>2 子どもたちが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業・保育づくり<br>3 自分のきこえを知る～自立活動の充実 毎日 帯で～<br>4 自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進<br>5 からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活に位置づける<br>★ 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善★ |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|      |                                          |                                    |                               |
|------|------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| 評価基準 | A: 十分達成81～100％<br>D: まだ不十分31～40％⇒改善方針が必要 | B: 概ね達成61～80％<br>E: 目標や方針の見直し30％以下 | C: 変化の兆し41～60％⇒経過を分析し、改善方針を検討 |
|------|------------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|

| 評価項目                | 評価の<br>具体項目                                        | 年<br>度<br>当<br>初 | 現<br>状                                                                                                                                                                                                          | 目<br>標<br>(年度末の目指す姿)                                                                                       | 目<br>標<br>達<br>成<br>の<br>た<br>め<br>の<br>方<br>策                                                                                                                         |
|---------------------|----------------------------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>社会で生き抜く力を身につける | ②①と子一感ど人じも一人授ちの業・主こ保役えとにづなくりした「わがびる」の充実「できる」「たのしい」 | 幼稚園部             | ・いろいろな生活場面で友達関係が深まり、おはなしタイムの取り組みを通して、やりとりを楽しむ姿や友達の話聞きこうとする姿が見られるようになってきた。<br>・手話や文で話す力等、相手がわかるように伝えることばの力が、不十分である。                                                                                              | ・相手がわかるように伝えられることばの力が高まる取り組みを進めている。                                                                        | ・友達同士の関係性を更に深めるためにも、子ども同士でやりとりが確実にでき、相手がわかるように伝えられる・相手の話が分かることばの力をつける取り組みを進める。<br>・写真日記、絵日記、おはなしタイムや活動ごとの振り返り等で、文で話をする、筋道を立てて伝える、経験したことを伝える活動を積み重ねる。                   |
|                     |                                                    | 小学部              | ・児童の実態に幅があり、個に応じた指導を行っていく必要がある。<br>・児童の実態や学習の在り方に応じて、めあての提示、話型の活用、めあてを意識した振り返りなどを工夫を継続して行うことで、児童の学ぶ意欲が向上している。<br>・ICT機器を活用する場面は増えてきたが、目的に応じて児童が自主的に活用する場面は少ない。<br>・きき違えたり、あいまいに覚えたりしていることばがあり、適切な修正や確認を行う必要がある。 | ・児童一人一人が「わかった」、「できた」と自己肯定感を得る授業づくりを行っている。                                                                  | ・児童の実態把握を行う。<br>・めあての提示の仕方、話型の活用、めあてを意識した振り返り、板書の工夫、教室掲示等の改善や工夫を図る。<br>・ICT機器を使う機会を意図的に設けるとともに、児童が主体的に操作する機会を増やしていく。                                                   |
|                     |                                                    | 教育研究・自立活動部       | ・幼児児童同士が自分の思いや考えを伝え合う姿や、相手に合わせて伝え方を考えて関わろうとする姿が見られるようになってきている。さらに、ことばの力を深め、言語の拡充に努める必要がある。<br><br>・職員一人一人の聴覚障がい教育への理解を深め、授業改善の意識を高めることができています。聴覚障がい教育の専門性の維持・継承、複数の障がいを合わせ有する子どもへの指導・支援などの専門性を高める必要がある。         | ・幼児児童が「伝えたい」「わかりたい」という意欲を持ち、手話や自分なりなことばで積極的・相互的にやりとりをするとともに、継続的な言語指導により、ことばの力が高まって、日々の活動・学習に意欲を持って取り組んでいる。 | ・校内研究3年目のまとめとして、幼児児童が積極的・相互的にやりとりするような環境設定を行うとともに、ことばの概念を育てていく意図的ななかかわりや、ことばの力を高める指導を積み重ねていく。<br>(話型、絵カード、掲示等の言語環境、手話等、見本の提示等)                                         |
|                     |                                                    | 情報教育部            | ・職員研修で学んだことを生かし、フォームアンケート等の公務に活用する姿が見られてきている。また、プログラミング学習について、小学部の学習に支援員さんがSTとして支援に入るなどの活用を試み、成果を得ることができている。ただし、職員対象のプログラミング教育研修を今後進めていく必要がある。                                                                  | ・ICT研修や教材紹介などを通して、教科指導や校務分掌業務に生かしている。                                                                      | ・ICTを活用した授業を行う教職員のスキルが向上するよう、定期的に研修する機会をつくる。ICT支援員を活用した研修、またプログラミング教育につながる研修の機会を設定する。                                                                                  |
| 2<br>こうなりたい自分・夢をもつ  | ④③自分のよきさをえを知り、のくば自立、活動の向充かう取毎日組み帯で推し進              | 幼稚園部             | ・教師と一緒に併行通園や学校間交流園の友達に自分のきこえについて伝えることができたが、生活場面の中では、自分からわからないことをきき返すことは少ない。<br>・きこえにくい自分を意識して、安全に過ごそうとする意識はまだ低い。                                                                                                | ・自分や友達のよさを見つけ、伝えたりほめたりしている。<br><br>・自分の装着している補聴器や人工内耳を安全に使うよう意識している。                                       | ・併行通園や学校間交流で、きこえや手話について幼児主体の発信が増えるように園と連携をとっていく。<br><br>・きこえにくい自分を意識し、どう行動したら安全に楽しく過ごすことができるか、具体的な行動につなげられるように、自己理解を深める。                                               |
|                     |                                                    | 小学部              | ・友達や他者との関わりを楽しみ、意欲的に活動している一方で、自信のない活動には消極的になったり友達や教師に思いを伝えられず、途中であきらめる場面が見られる。<br>・相手に分かるように伝えたい、相手の意図を分かりたいという意識が徐々に芽生えつつある。                                                                                   | ・自分のよいところを見つけ、自信を持って日々の活動に取り組んでいる。<br>・自分のきこえの特徴や自分の考えが伝わりやすい表現方法があることを意識し、確認をしたり、伝え方を工夫したりしている。           | ・達成感を味わったり、自他のよさに気づいたりできるように、児童の制作物に感想を書いたり、がんばりを紹介したりする機会を設ける。<br>・児童の自己肯定感を高められるように、できたこと、良かったことに対して称賛する。<br>・児童が自分の思いを表現し、教師や友達とじっくり対話をする時間を設定する。                   |
|                     |                                                    | 支援部              | ・自分から積極的に思いを伝えるようになった子もいるが、新しく関わる子どもにおいては、話すことや話し方・発音に自信がない様子が見られる。<br>・手話学習会やわくわく交流会では、内容や回数を考えた場を設定し情報発信することで参加者も増えている。乳幼児教育相談ひよこぐみにおいては、グループ活動を行うことができ、関わりやつながりがひろがることへつながっている。                              | ・躊躇せずに話そうとし、意欲的に「伝えること」を楽しんでいる。<br><br>・ニーズに基づいた活動や情報交換を繰り返すことで、自信や安心を得るとともに、関わりがより深まっている。                 | ・必要な情報を集め、整理し、提供する。<br>・安心感のある環境と関係づくりを基盤とし、内容をさらに吟味し、よりよい活動を考えていく。<br>・個々の実態把握をもとにニーズを明確にし、教職員間、医療・福祉・学校・園・補聴器店など各関係機関および保護者と常に情報共有や連携しながら活動を計画する。                    |
|                     |                                                    | キャリア教育部          | ・きこえない、きこえにくい子ども達の進路、就労、余暇活動等について、教員、保護者の理解がまだ十分ではない。<br><br>・保護者に「ふるさと鳥取」キャリア教育の取組があまり知られていない。                                                                                                                 | ・子ども達の将来について、教員が幼児・児童、保護者に発信したり、ともに話し合ったりしている。<br><br>・「ふるさと鳥取」キャリア教育について、保護者の理解が深まっている。                   | ・進路や就労についての職員研修を実施する。<br>・校内掲示やキャリア教育だよりで、先輩の進路や就労の情報を発信する。<br><br>・校内掲示やキャリア教育だよりで活動したことを紹介するとともに、「ふるさと鳥取」に関する情報を工夫して発信する。                                            |
|                     |                                                    | 人権教育部            | ・人権意識は高まってきているが、引き続き、一人一人を大切にしているかを様々な場面で振り返り、自らの意識を絶えず見つめ直すことが望まれる。                                                                                                                                            | ・子ども達や教職員同士の人権を大切にする環境づくりに努めている。                                                                           | ・自己チェックリスト(人権感覚を磨く)を年に2回実施する。<br>・人権尊重を育む内容の授業公開や研修会を設定する。(人権教育参観日等)<br>・年度末に人権教育反省アンケートを実施する。                                                                         |
| 3<br>あきらめない体力・気力    | ⑤からだだづを動かす楽しさを生活にさ位置づけ、                            | 幼稚園部             | ・運動の時間の様々な活動に対して、自分なりに目標をもち、達成しようと意欲的に取り組み、できるようになった自分、がんばった自分を自覚して達成感を味わう様子が見られるようになってきた。<br>・自由遊びでは、学部を越え、自分から進んで小学部の友達の遊びに加わり、サッカーやドッジボール等を楽しむ子どももあるが、一人遊びを楽しんでいる子どももいる。                                     | ・楽しみながら体を動かし、自分のできる動きを増やしている。<br><br>・集団遊びの楽しさを知り、自分から友達の遊びの輪に入っている。                                       | ・個々のチャレンジ意欲を高める活動内容の工夫や目標設定を行い、楽しみながら達成感が得られるように段階的な取り組みを継続していく。<br><br>・集団遊びの楽しさを実感できるように、交流園や小学部と連携を図る。                                                              |
|                     |                                                    | 小学部              | ・昨年度様々な動きを取り入れた活動を行ったり、ICT機器を活用して動きのイメージ作りをしたりしたことで、体の動かし方がスムーズになり、体育等の学習の中では、意欲的に運動に取り組むことができるようになってきた。学習以外の場面では、継続してからだづくりをすることが少ない。<br>・休憩時間には、サッカー、鬼ごっこ、ブランコなどの様々な遊びを楽しみ、意欲的に運動する様子が見られる。                   | ・からだづくりにおける自分のめあてを持って、主体的、継続的に運動に取り組んでいる。                                                                  | ・様々な動きを取り入れたり、ICT機器を活用した取り組みを行ったりしていき、児童自身がめあてを持って主体的に活動できる内容を教師間で共通理解して進めていく。<br>・からだづくりの時間や体育などで継続的に学習を進めていき、学習内容を発信することで家庭と連携して、休業中における体力の維持・向上等の取り組みにつなげていけるようにする。 |
|                     |                                                    | 健康安全教育部          | ・限られた環境の中で、休憩時間になると身体を動かして遊ぶ姿が多く見られる。遊びも小学部では球技を中心に少しずつ拡がりが見られてきている。<br>・すっきりモーニングを通して、時間を意識して生活することができたり、より良い生活習慣について教師に尋ねたりする等の様子が見られるようになってきている。                                                             | ・遊びのバリエーションを増やし、遊びの中で体を動かす楽しさや、体の使い方を知っている。<br><br>・望ましい生活習慣について知り、自分でできることに取り組んだり、振り返って評価したりしている。         | ・幼児児童がより主体的に運動に取り組めるよう、環境や時間の設定等の方策を検討する。<br><br>・生活リズムが崩れやすい時期に生活習慣を振り返る機会を設定したり、家庭への情報発信をしたりする。                                                                      |
| 4<br>推進業務改善         | 選へ1効率業務化務の精                                        | 職へ場2環働のき充や実すい    | ・来年度の中学部再開に向けて、年間を通して計画的に準備を進めていく必要がある。<br><br>・教材やパソコン内のデータの所在が十分に整理されておらず、所在の確認に時間がかかったり有効活用できていない校内資源があったりしている。                                                                                              | ・中学部再開に向けて準備を進め、生徒を迎える体制が整っている。<br><br>・各種教材やパソコン内のデータなどの校内資源が効果的に整理され、必要時に効率よく活用することができている。               | ・校務分掌に「中学部再開準備会」を位置づけ、定期的に会を持ち、教育課程や環境整備、学校生活などの準備を進めていく。<br><br>・校内資源(各種教材・パソコン内の各種データ等)を使いやすいように集約・整理して所在を明確にすることで、業務の効率化・時間短縮を図る。                                   |